

# 幼稚園の道徳教育について

小林操

(十月二十三、四、五の三日間、お茶の水女子大学で、文部省主催の幼・小・中・高校校長研究協議会が開催された。幼稚園部の概況を記す。)

幼稚園分科会の研究主題として、あらかじめ文部省から各都道府県に示されたものは、

(一) 幼児の成長発達にそくし、どのような道徳性を、どのようにして伸ばしたらよいか。

(二) 幼児の基本的な生活習慣の形成、安全指導、身近な集団生活への適応のために、とくにどんな点に留意したらよいか。

(三) 幼児の道徳教育における家庭との連絡協力をどのようにしたらよいか。

(四) 道徳教育に対する教師の関心と意欲をどのようにして高めたらよいか。

の四課題であった。幼児を対象とする幼稚園は、小・中・高・特殊教育の各分科会に共通に示された問題とは多少異っていた。

幼稚園の課題を位置づけるために小・中・高・特殊教育の共通課題を見ると、

(一) 道徳教育の基本的な考え方について、

(二) 道徳教育の指導組織および地域社会との連絡協力について、

(三) 道徳教育の実施の方法について、

(四) 道徳教育に対する教師の関心と意欲の高揚について、

(五) 道徳教育の当面する諸問題についての五つであった。

各都道府県では事前研究をして、その結果が、分科会出席の全会員に配布され、研究協議の資料として提供せられた。

研究協議会幼稚園分科会は、二十四日午前九時半から四時まで学芸大付属幼稚園で熱心に進められた。まず(一)と(二)の研究主題については、安藤清氏(岐阜市立加納幼稚園園長)と、友松諳道氏(東京神田寺幼稚園園長)の研究発表。つづいて(三)と(四)の研究主題については、内匠ち亀氏(明石市播陽幼稚園園長)と山田顕達氏(静岡市横内幼稚園園長)の研究発表があった。

安藤清氏 こどもの道徳性とか習慣形成とかは、こどもの理解や認識の上に立って、自然発生的な経験の積み重ねから、こどもが発見し合理化していくという立場と、いま一つは、理解以前のもの、理屈ぬきのものとして、生活の様式を繰返すことによって固定化する立場がある。

幼児の行動は、価値を意識しない、即自的な行動といえる。これらの生活行動が道徳性をもつためには、抑制と促進が必要である。この両者のダイナミックな相互関係で、幼児の行動が、よりよいものへ習慣化され、道徳性は芽生えて来る。

抑制的規範となるもの——社会的生活がその第一。一方では意識的な教育の間に躰としておこなわれる。ここに幼稚園の躰の教育がある。しかもこの躰は、理解とか知識とか、納得といったもの以前のものである。

幼稚園教育では、この無条件に理屈ぬきにして行動させることに躊躇してはならぬ。と同時に、みのが、さ、ないという躰のきびしさが必要である。しかもこの躰の習慣化は実践性と結びついて考えられなくてはな

らない。

促進的規範になるもの——こどもの心理的発達に伴う情緒性にのっかる指導が習慣形成には必要である。

雰囲気というもの——雰囲気は繰返しの抵抗を少くする。雰囲気をよりよくする研究や努力が必要である。たくましさ、強さを養い、自主性、自律性を培養しなくてはならぬ。要は抑制と促進の幅広いバランスのとれた雰囲気によってこどもを指導しなくてはならない。

友松諦道氏 幼稚園における望ましい道徳教育のあり方を考えると、

一、幼稚園における道徳教育の位置づけ。

(1) 就園前のこどもは家庭生活における成人の影響が強い。

(2) 従来は幼稚園での生活指導の中で道徳性は養われてきた。

(3) 従来は生活指導では、徳性の涵養に多少欠ける面があった。

(4) 教師個々の人生や道徳に関する考え方の浅さ、不一致も間々見られた。

(5) 幼児の理想像と、教師の人生観が確立されていなくてはならぬ。

二、幼稚園でおこなう道徳教育のわきまえ。

適切な教育計画をたてるには幼児について次の配慮が必要である。

(1) どの程度のきまりが守れるか。

(2) どのような生長が見られるか。

三、幼稚園における道徳教育の目標と方法  
(1) 園児の実態を正しく把握することによって、理想の幼児像を確認すること。

(2) 家庭に対する指導、不良文化財、宗教教育など考慮すべき問題が多い。

内匠ちゑ氏 広い意味の環境教育に重点をおかなくてはならない。殊に家庭との連絡協力は絶対に必要である。

父の会、母親教室、祖父母の会、保育参観日、生育史の調査、連絡帳、家庭訪問、遊戯会・運動会、身体検査、体重測定の家  
庭への連絡、近隣融和、児童遊園地の整備などによって家庭の理解を促進させる。  
教師の関心と意欲を高めるには、

(1) 教職に対する自覚と使命感に生きること。  
(2) 職員会で道徳面の研究討議をする。

(3) 幼児の行動調査をする。

(4) 幼児の道徳教育の事例研究をする。

(5) 道徳教育の研修会に出席して研究する。  
(6) 園内の環境整備に努力する。

(7) 不良文化財の追放に努力する。

山田顕達氏 家庭教育と幼稚園教育は車の両輪である。

(1) 家庭から幼稚園に連絡することから。

子どもの発育や行動、生活の実態。子どもをとりまく家庭の実情。両親の対応も観。子どもの問題点に関する家庭の考え方。幼稚園への要望など。

(2) 幼稚園から家庭に連絡することから。幼稚園教育のねらいや教育内容。幼児の心理と扱い方。身体の特徴と扱い方。幼稚園での指導の実際。家庭への要望。園の行事など。

(3) 協力の方法については内匠ちゑ氏の内容と大体どうようであった。

なお教師の関心と意欲の高揚については、幼稚園教諭の実態調査に基いて教師の性格、資質、園長のとくに配慮すべき点について詳細な発表がおこなわれた。

四氏発表についての質疑応答の後会員の意見が述べられ、各都道府県で研究せられた結果についての発表がおこなわれた。要は、教師の研究と実践と熱意にまつところが多いという意見が多かった。